特別会員の表彰

6代学長・五十嵐直雄の「福井神社」がモダニズム名建築に選ばれた

建築専攻H5年修了
システム設計専攻H8年修了
福井工業大学教授　市　川　秀　和

「福井神社」竣工時の
五十嵐直雄（42歳）

1．福井県初のDOCOMOMO選定建築物

2022年6月6日、モダニズム建築の国際保存団体DOCOMOMOの日本支部が、新規の国内選定建築物14件を公式に発表したが、その中に福井県初となる「福井神社：建築群８棟1957～1966」が含まれており、翌日の福井新聞第１面に大きく報じられた。日本で初めて陸屋根スタイルを導入した鉄筋コンクリート造による当神社建築は、福井大学６代学長の建築家・五十嵐直雄の代表作であり、戦後モダニズムの名建築として高く評価された。そして同月18日開催の福井県建築士会70周年記念講演にて筆者は、この選定までの経緯と学術的意義を解説したが、日本海側の地方小都市・福井では、建築専門家でさえDOCOMOMOを知る人が少ない現実を前に、選定の責任と今後の困難さを痛感せざるを得なかった。ともかく10月10日の福井神社・秋季例大祭においいて日本支部事務局長・大宮司勝弘氏から「選定プレート」の贈呈が厳粛な中で挙行された。

なお、これにより同団体が後世に残すべき文化財的価値を有する近現代建築物として位置付けた選定数は264件となったものの、その半数以上が東京や大阪を中心とした大都市圏に集中する一方で、現在でも未選定の地方県があることなど現実的課題は多い。伝統木造建築とは異なり、鉄筋コンクリート造のモダニズム建築の重要性を広め、その認知度を高めるのは極めて難しく、日本各地で今も何ら評価されないまま取り壊されている。福井県も決して例外ではない。

福井神社 建築群８棟 1957～1966
DOCOMOMO Japan選定建築物 no.255

DOCOMOMO Japan 設定プレート贈呈式（2022.10.10）

2．福井大学建築学の誇り高き栄誉として

この名建築「福井神社」を設計した五十嵐直雄（1915～1987）は、大正４年に坂井町上関に生まれ、福井中学を経て金沢の四高、そして東京帝国大学建築学科へ進学し、同期生の丹下健三や大江宏、浜口隆一らと建築家への道を歩み出した。昭和13年に卒業後、満州国国務院の建築技師に就職して戦時中は大陸で過ごし

丹下健三と 五十嵐直雄（同窓会1983）

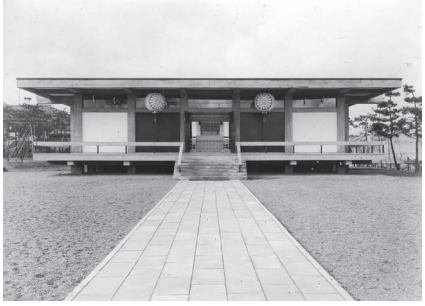
た。敗戦後の昭和21年に帰国し、新制・福井大学工学部建築学科助教授となった五十嵐は、空襲と震災で壊滅した郷土福井の復興事業において、主任教授の坂部保治とともに設計活動に従事しながら、優秀な学生たちを育成して地元の建築界へ送り出した。

こうして福井市の復興事業が落ち着き出した昭和30年頃から熊谷太三郎市長の平和文化都市構想の下、幕末の藩主・松平春嶽を祀る「福井神社」再建が動き出し、その設計担当の五十嵐は、戦後モダニズムの建築家としての矜持をもって、鉄筋コンクリート造による斬新な神社建築作品を創り出すとともに、戦後日本建築界の伝統論争に対して「真壁の意匠」と呼ぶ独自な建築論を打ち立てた。五十嵐は、その後に工学部長、学長として地方大学人の責務を果たした。

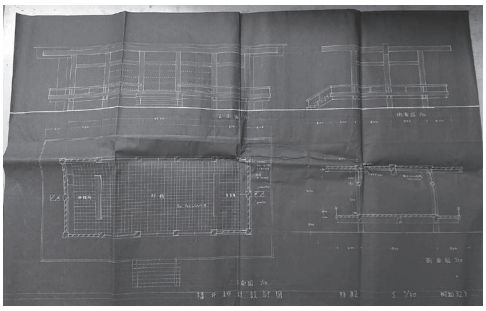
福井大学建築学の学風は、大正12(1923)年創設の福井高等工業学校建築科を源流とし、日本海側地域で最も古い歴史と伝統、そして初代校長の遺した「北冥」精神に基づく主体性を有した。百年の風雪を経て、忘れがたい大切な記憶を物語る校舎は文京キャンパスに既に無く、当時を直接知る学生や教員も少なくなった今だからこそ、このたびの五十嵐直雄の「福井神社」がモダニズム名建築の選定リスト入りを達成したことは、五十嵐が遺したものの継承であるとともに福井大学建築学の誇り高き栄誉であり、かかる学風を再びよみがえさせる契機となることを切望したい。これが創立百年の歴史と伝統を次代へ発展させるための確かな一歩になると考えている。

最後に、「福井神社」のDOCOMOMO申請にあたり、五十嵐直雄のご遺族の長男・鈞有氏と次男・清人氏、宮司・金岡正和氏をはじめ、ご協力くださった多くの皆様に深謝いたします。

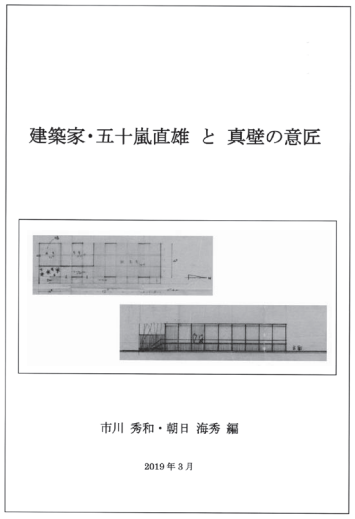
選定プレート



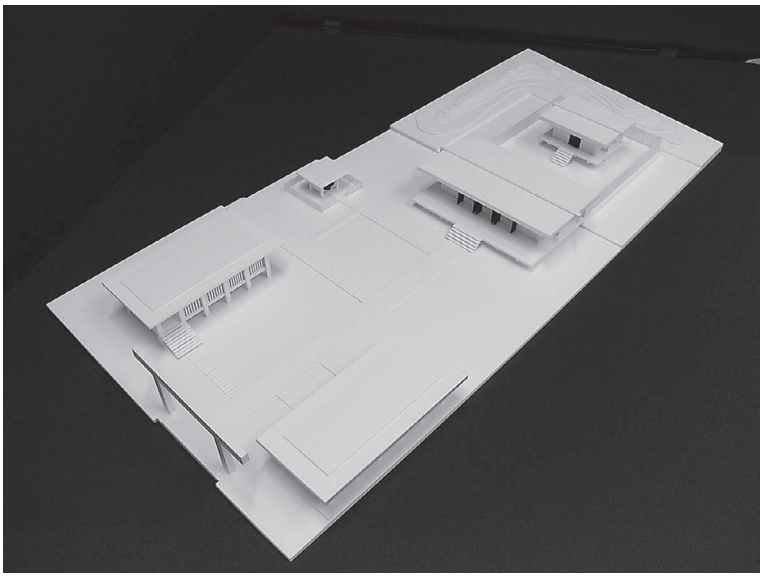
福井神社　竣工写真



福井神社　拝殿　青焼原図



市川秀和・朝日海秀編
『建築家・五十嵐直雄と真壁の意匠』
福井工業大学市川研究室2019



福井神社　全体模型1/100　　福井工業大学市川研究室